
空腹の理由

成無己

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空腹の理由

【Nコード】

N6447C

【作者名】

成無己

【あらすじ】

ユウキは空腹が空いていた。なのに彼は食事をしない。

（前書き）

ぜんぜんファンタジーではないかもしれません。
すいません。

ユウキはお腹が空いていた。

主人と違い、真面目で休むことを知らない胃が必死で胃液を分泌するも溶かすものではなく、結果自分を痛めつけている。胃に入りかけた胆汁が逆流して、キリキリと捻るような痛みを生んだ。

「お腹と背中がくつつくゾ」

子供のころに歌った歌のワンフレーズが自然と頭の中で思い出された。

また一つ、お腹が力無く鳴いた。

公園のベンチにどかつ、と座る。

夕焼けの公園に人影は無く、ユウキの吐いたため息が小さく響いた。右手にはコンビニの袋、中にはウーロン茶とおにぎりが一つずつ入っている。

ユウキはべつにお金には困っていない。裕福というわけではないけれど、一週間分の食事のメニューを考えられるくらいのお金はあった。

ただお腹が空いていた。

がさがさと派手な音を立ててコンビニ袋からおにぎりを取り出す。ちなみに王道「梅おにぎり」。ユウキは、夕日にかざす様にしてそれを眺めた。

しばらくそうした後で、ユウキは包装されたままのおにぎりと自分の右手を、ペタンと力なく額に置いた。次にため息をまた一つ。

「やっぱり……、だめだ……」

そう、呻くように小さく言った。

ベンチの背もたれに首を置いて夕焼けの空を見上げる。

透けてしまいそうなほどに淡い月が、紅く染まって浮いているのが見えた。

帰り際、見つけた野良猫におにぎりあげた。猫は梅の部分をきれいに残し、ほかの部分を全部食べて去っていった。

ユウキはウーロン茶を二口飲んで残りをゴミ箱に捨てた。さすがに水分補給をしないと死んでしまう。死ぬ気はない。もう少し。

ユウキのお腹がまた一つ鳴った。

その日、高校でユウキは先生に呼び出された。ここ最近、どうやらほとんど食事をしていないユウキを心配してのことだった。

先生が理由を聞くと、ユウキは意外にも素直に理由を言った。むしろ周りが心配していることに驚いたようだった。

これはユウキと先生の会話の最後の部分。

「なあ、ユウキ。一応言っておくぞ。物食べなくなったところで虫歯は治らんぞ」

「……へ？……まじですか？」

（後書き）

感想、ご指摘等ございましたら、よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6447c/>

空腹の理由

2010年10月24日13時33分発行